プロジェクト１　人口（流出の抑制）　グループ 15

３１Ｈ　下出京佳　３３Ｈ　宮本琢朗　３３Ｈ　新谷優真
３４Ｈ　本吉那帆　３４Ｈ　大森重慶　３６Ｈ　小道文也

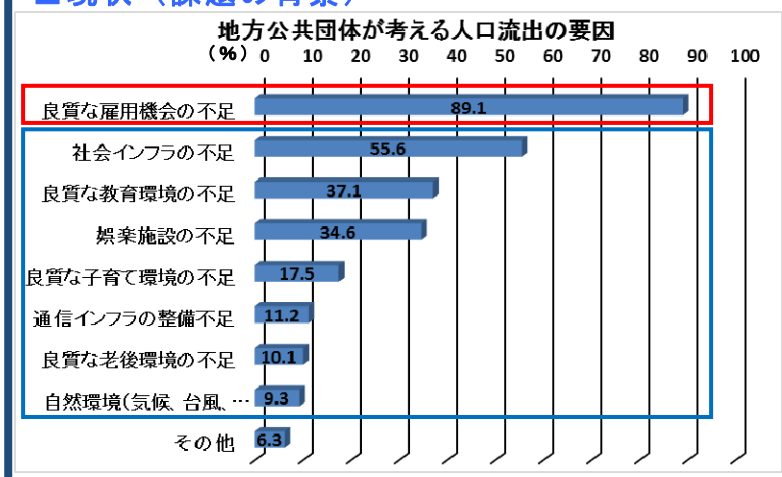
■課題

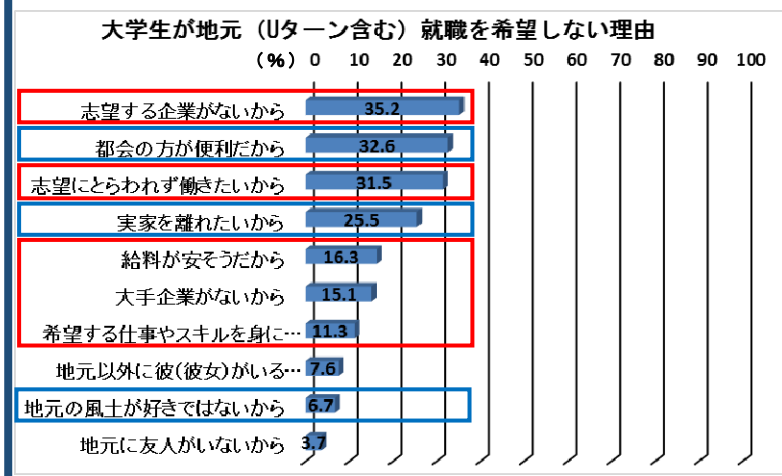
能登の雇用や仕事の情報を知る機会が少ない

■解決策

雇用や仕事の情報発信の機会を増やすことで、都会に行った人たちのＵターンを狙う

■現状（課題の背景）





青（住む環境）　赤（雇用、仕事）

＜全国の地方公共団体を対象に実施したアンケート＞

地方から東京圏への人口流出の状況で、人口流出の要因は住む環境の要因の数が多いが、雇用に関することである「良質な雇用機会の不足」の割合は、その他の要因と比べてはるかに大きい。

「総務省」
http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc231120.html

＜地元就職を希望しない理由のアンケート＞

大学生が地元就職を希望しない理由としては、「都会のほうが便利だから」と住む環境の理由よりも、「志望する企業がないから」、「志望にとらわれず働きたいから」と雇用、仕事に関する理由が多く占めている。

「EY 新日本有限責任監査法人」
https://www.shinnihon.or.jp/shinnihon-library/publications/issue/eyi/issue/2015-02-vol03-02-02.html

仕事や雇用の情報を得る機会が少ない

■具体的内容

- SNS や HP で定期的に能登の雇用や仕事の情報を発信、更新する　（個人、企業、団体、市役所）
- 県内や都心部でしか行われていなかった**就職フェア**を県内出身が多い場所で開催する。
- 各市町村に**定住財団**を作り、求人情報を積極的に集め、企業や市町村との結びつきを強くする。

■効果

- 能登の魅力を理解、再確認できる
- 能登の魅力や情報を聞き、興味を持つ
- 就職フェアの参加人数が増加する
- 雇用や仕事の情報を知り、希望の職種が見つかる

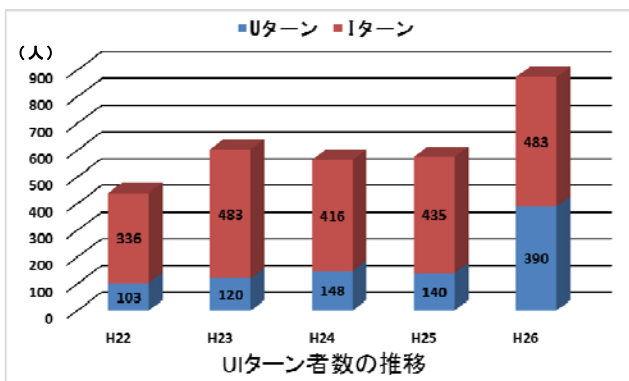
↓

能登での就職が促進

→ **人口の流出が減る**

■成功例

「島根県」　島根 UI ターンフェア
場所　東京・大阪・広島
参加　島根の１９市町村
定住財団のスタッフが地元企業を直接回り、雇用情報を得て紹介した。UI ターンフェアや SNS 等の総合的な情報発信や産業体験事業をなどの充実した支援制度の認知度が高まってきたなどを理由に、U ターンする者が大幅に増加した。



「移住・定住の取組事例紹介」
http://www.kiyobank.co.jp/business/various_info/monthlyrelease/images/201609_04.pdf